

め あ やまやま あお
目を上げて、わたしたちは山々を仰ぐ。
わたしたちの助けはどこから来るのか。
わたしたちの助けは来る、天地を造られた主のもとから。
しゅ しゅ み な ちからづよ ぜんち み
主よ、わたしたちの主よ。あなたの御名は、いかに力強く、全地に満ちていることでしょう。

しゅ ひがしにほんだいしんさい どうきょうでんりよくふくしまだいいちげんしりよくはつでんしょ じ こ ねん た
主よ、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故から9年が経ちます。
わたしたちの住む地は激しく揺れました。さらに、わたしたちは原発事故の現実には曝されています。
この恐怖は忘れることができませんし、いまだにこの不安を拭い去ることはできません。
しかし、そのような日々の中でも、主の伴いと守りを覚え、今日という日の大切さを知ることが
でき、感謝します。

しんさいかんれん な かた まん にん ゆくえふめい かた にん げんざいひなん
この震災関連で、亡くなられた方は1万5,899人¹、行方不明の方は2,529人²、現在避難している
方は4万8,181人³です。主よ、まだまだ辛い中におられる人々に、一日も早く笑顔がもどりますよ
うに、苦しむすべての人々に寄り添い歩んでください。御言葉と聖霊によってわたしたちを支え、
なぐさ い ちから あた
慰め、生きる力を与えてください。

げんばつじ こ ぐわんしん むせきにん お しゅ あやま おか つごう わる
原発事故は、わたしたちの無関心、無責任から起こりました。主よ、過ちを犯し、都合の悪い
ことから目をそらすわたしたちの罪を赦し、憐れんでください。この過ちを繰り返すことがない
ように、主を見上げて、目を覚ましていられるようにお導きください。そして、わたしたちの生
き方が変えられ、この地上から原子力発電所がなくなりますように。

しゅ そうぞう せかい よろこ じゆう み い
主よ、あなたが創造されたこの世界で、喜びと自由に満たされて生きることができるようにし
てください。子どもたちや、これからの人生を歩む人々に、不安ではなく希望を与える良き知恵と
ちから あた いま いのち けず げんばつはいろ さぎょう お ひとびと うえ
力をお与えください。そして今、命を削って原発廃炉作業を負ってくださっている人々の上に、
しゅ まも げんばつじ こ いじゅう よ ぎ ひとびと かぞく はな ばな
主の守りがありますように。また、原発事故により、移住を余儀なくされた人々、家族と離れ離れ
になった人々に主の平安と希望がありますように。

わたしたちは、これからも、災害に遭われた人々や被災地を忘れず、祈りを合わせて歩みます。
しんさい げんばつじ こ ち しお よ ひかり きょうかい はたら もと
震災と原発事故によって、ますます地の塩、世の光としての教会の働きが求められています。
じゅうじか ふっかつ しゅ とも あゆ
十字架と復活の主よ、わたしたちと共に歩んでください。

あなたの御名が崇められますように。アーメン。

※この祈りは、郡山コスモス通り教会の皆さんが持ち寄った祈りをもとに、委員会で話し合って作成されました。

¹ 2020年1月現在。福島県ホームページ。

² 2020年1月現在。福島県ホームページ。

³ 2020年1月現在。福島県ホームページ。このうち、3万1,022人は福島県から県外への避難者。

2020年2月19日

全国の諸教会・伝道所の皆様

東日本大震災 現地支援委員会
委員長 金丸 真

「2020年3月11日 東日本大震災から9年を数えての祈り」の送付について

主の御名を讃美いたします。

これまで東日本大震災現地支援委員会の働きを覚えて祈ってくださり、そして、現在も支えてくださっている皆様に、心から感謝いたします。

東日本大震災と原発事故の風化が叫ばれている中、現地支援委員会では、ぜひ全国の皆様に現地の状況と、現地の思い、そして現地の祈りを共有していただきたいとの願いから、今年も「2020年3月11日 東日本大震災から9年を数えての祈り」を作成しました。

これまで、祈りの言葉の原案は、毎年、委員会で選ばれた一人の人が作成し、その原案をもとにして委員会でさらに練り上げ、祈りの言葉を完成させてきました。しかし今回は、一人の人ではなく、郡山コスモス通り教会の教会員の方々が、みんなで祈りの言葉を数行ずつ持ち寄って、祈りの原案を作成してくださいました。委員会はその原案をもとに協議して、この祈りの言葉を完成させました。この祈りには、今の福島に生きる方々の思いが込められています。ぜひ教会・伝道所でお分かちいただいて、共に祈りしていただければ幸いです。なお、今回の祈りの言葉は、いくつかのブロックに分けられていますので、ブロックごとに祈る人を立てる用い方もできます。

また、東北だけではなく、様々な場所で災害が起きていることについて、私たちは胸が締め付けられる思いを持ちながら祈りを合わせています。今回作成した祈りの言葉が、東北だけではなく、様々な被災地域の方々とも思いを合わせる祈りとなりますように願っています。

東日本大震災から9年を経過すると、震災への意識が薄れてきているのも事実です。現地支援委員会は、被災された方々と共に歩ませていただく活動を大切にしていますが、同時に、私たちの減災・防災の意識を高めることも大切だと考えています。この機会に、ぜひもう一度、災害が起きた時にどのような行動を取ったらよいのかを教会やご家族などで考えておくことが大切だと思います。例えば、避難先や連絡方法を確認しておくこと、自家用車の燃料は常に半分以上入れておくことなど、今だからこそ、もう一度話し合ってみてください。

最後になりましたが、貴教会・伝道所の歩みの上に、主の祝福と恵みが豊かにありますように、心からお祈りしております。皆様のご支援に心から感謝して。

在 主

◆被災地支援募金 郵便振込 00140-9-180881 宗教法人 日本バプテスト連盟総務部

※「被災地支援募金」と明記してください。

日本バプテスト連盟 現地支援委員会 委員長 金丸 真（仙台長命ヶ丘教会）電話/FAX 022-378-1263